

「徳島教育大綱（仮称）」 骨子（案）

1 大綱の趣旨

- ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき策定
- ・喫緊の課題である「地方創生」の視点を盛り込んだ「徳島ならではの」の大綱
- ・「新未来『創造』とくしま行動計画」を踏まえ、本県の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の基本方針を定める。

2 本県教育の現状と課題

- 人口減少・超高齢化社会の到来など社会情勢の変化への対応
- 誰もが等しく学べる社会づくりの推進
- 学校及び地域が連携した「地域を支える人づくり」の推進
- 「ふるさと徳島」を知る機会の創出
- グローバルな視点から「世界に挑戦」する教育の推進

3 基本目標

- とくしまの未来を切り拓く、夢あふれる「人財」の育成

4 基本方針と重点項目

I 地方創生から日本創生へ！「徳島ならではの」教育の推進

- 人口減少社会に挑戦する「徳島モデル」の学校づくり
- 子どもたちの可能性を最大限に伸ばす教育の推進
- 将来を描くキャリア教育の推進
- 個性をひらく特別支援教育の推進
- 災害を迎え撃つ防災教育の推進

II 一人ひとりが輝く！徳島の「未来」を育む教育の推進

- 確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成
- 徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進
- 学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進
- 地域資源を活用した新たな魅力発信
- 時代の潮流を見据えた学びの推進

III 世界へチャレンジ！「進取の気質」あふれる教育の推進

- 世界に羽ばたくグローバル人材の育成
- 東京オリンピック、パラリンピックで活躍するアスリートの育成
- 科学技術の未来を切り拓く人材の育成
- 世界で活躍するアーティストの育成
- 世界への扉をひらく国際交流の推進

5 推進期間

平成27年度から30年度までの4年間

◆ 骨子(案)における主な取組項目(案)

基本方針と重点項目	主な項目
I 地方創生から日本創生へ！「徳島ならではの」教育の推進	
○人口減少社会に挑戦する「徳島モデル」の学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・チェーンスクール、パッケージスクールの拡充 ・ふるさと回帰への礎「デュアルスクール」の創設 ・全国屈指のブロードバンド環境の教育への活用
○子どもたちの可能性を最大限に伸ばす教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「リーディングハイスクール」のさらなる飛躍 ・高等教育機関との連携による教育力の充実 ・本物に触れる、体験を重視した教育の推進
○将来を描くキャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・未来を創造する新学科の設置（森林クリエイト科、6次産業化学科） ・学校・地域・企業が連携したインターンシップの実施 ・小中学校における職業体験の拡充 ・6次産業化キャリアアップシステムの構築
○個性をひらく特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・みなど高等学園を核とした発達障がい教育と地域のまなび支援 ・特性、能力に応じた就労支援の充実 ・社会全体が取り組む就学前、在学時の切れ目ない支援
○災害を迎え撃つ防災教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の安全を守る防災士の育成 ・学校における避難所機能の強化
II 一人ひとりが輝く！徳島の「未来」を育む教育の推進	
○確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「徳島『確かな学力』育成プロジェクト」の推進 ・多様な価値観を認め合う心の醸成 ・生命、絆の大切さに関する教育の推進 ・「元氣な阿波っ子憲章」による子どもの健康づくり ・主体的に学び向上し続ける教職員の支援
○「とくしまを愛する心」の育成と「とくしま回帰」の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・あわっ子文化大使による「あわ文化」の魅力発信！ ・徳島の歴史・文化・自然を体感、体験する教育の推進 ・世界遺産登録への挑戦 ・大学等高等教育機関と連携したフィールドワークの拡充 ・まなびーあ徳島の充実・強化 ・地元就職促進・奨学金返還支援制度（仮称）の創設
○学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての子どもへの均等な教育機会の提供 ・学校を核とした地域教育力の強化 ・就学前教育と学校教育との連携（小一プロブレムの解消） ・家庭の教育力の向上 ・すべての子どもに質の高い幼児教育を提供できる環境の整備 ・家庭や地域と連携した道徳教育の推進
○地域資源を活用した新たな魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> ・「文化の森」（25周年記念・マチアソビとのコラボ）、 「埋蔵文化財総合センター」（20周年記念・4kによるデジタルアーカイブ） の新たな取組み ・「高校発ジャパンプルー」阿波藍で徳島の文化資源を世界に発信 ・全世代がともに歌う「とくしま” 歓喜の歌”」を世界に発信 ・若い力による「阿波人形浄瑠璃」の発展 ・鳴門スポーツゾーンを活用した「スポーツ振興」と「健康づくり」 ・廃校舎、空き教室の有効活用による地域活性化
○時代の潮流を見据えた学びの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が積極的に参画する主権者教育の充実 ・全国モデルの消費者教育の推進 ・「環境首都とくしま」を支える環境教育の推進

III 世界へチャレンジ！「進取の気質」あふれる教育の推進

○世界に羽ばたくグローバル人材の育成	<ul style="list-style-type: none">・Tokushima 英語村プロジェクトの拡充・次代のリーダーを生み出す徳島ウィンターキャンプの推進・徳島県地域グローバル人材育成事業による支援
○東京オリンピック、パラリンピックで活躍するアスリートの育成	<ul style="list-style-type: none">・渦潮スポーツアカデミーの推進・徳島トップスポーツ校の充実・パラリンピック等育成強化選手の支援・障がい者トップアスリートによる講演会の開催・ジュニア期からトップレベル競技者へ育てる一貫指導システムの構築・目指せ！オリンピック・選手育成事業による支援
○科学技術の未来を切り拓く人材の育成	<ul style="list-style-type: none">・国際科学オリンピックへのチャレンジ・とくしま科学技術アカデミーの創設・スーパーサイエンススクールの拠点化
○世界で活躍するアーティストの育成	<ul style="list-style-type: none">・プロフェッショナルから学ぶスキル・スピリッツ・国際舞台での活動支援
○世界への扉をひらく国際交流の推進	<ul style="list-style-type: none">・海外姉妹校との活発な生徒間交流・海外の子どもたちへ素敵な日本、徳島を発信

総合教育会議における主な意見

【第1回総合教育会議】

(1) 地方創生の視点から教育を考える

- ・徳島ならではの大きな綱を取りまとめていく。まさにこれが地方創生。
- ・教育だけという狭い考えではなく、社会情勢に応じて教育も変わっていく必要がある。
- ・国を再生する最後のチャンス。これは教育にかかっている。
- ・県民の生の意見をしっかりと反映する必要がある。

(2) キャリア教育の重要性

- ・専門高校のあり方を検討するとともに、個性や目標に応じたキャリアパスについても積極的に支援していく必要がある。
- ・大学に行かせて終わりではなく、最終出口をしっかりと見た上での進路指導をすべき。
- ・主権者教育、高校からでは遅い。徳島の将来を考えるようになれば、政治にも興味を持つのではないか。

(3) 教育予算の有効活用、経営感覚の必要性

- ・全教職員がコスト意識を高め、新たな経営感覚を持って子どもたちに向き合うことが必要。
- ・教職員の給与自体が教育費だという意識が必要。
- ・教育予算を増やして、成果を出し、存在意義を高める方法もあるのではないか。

(4) 未来志向、時代の先を見越した教育の推進

- ・社会の動きをしっかりと見て、未来志向で行くべき。もっと先読みをする必要がある。
- ・時代の先を見越し、社会の変化、動きに対して的確に対応していく教育現場であって欲しい。

(5) 未来を担う人材を育成する教員の養成

- ・教える力、愛情が大事であり、学力至上主義を打ち破るべき。
- ・一般市民の感覚が、教育現場に反映されていないことが多いのではないか。
- ・教職員が生徒に興味を持って、とことん向き合うことが教育の基本。

(6) 子どもたちが具体的に夢を持つこと、夢を語れることの大切さ

- ・徳島の未来を担う子どもたちを育成していく必要がある。
- ・頑張りを導き出すのが夢。大きな目標を持って、そこに向けて努力するという環境をしっかりと作っていく必要がある。
- ・将来何になりたいかだけでなく、何をしたいかということが重要。
- ・子どもたちが自分を好きになる力が弱くなっている。
- ・教員が自信を取り戻さないと子どもたちは自信を持ってないし、夢を語れない。

(7) グローバル人材の育成

- ・徳島の中で一番でなく、目標を高いところに持って欲しい。世界がある。
- ・目指すは世界、教育現場の教職員が情熱を持って伝えて欲しい。

(8) 学校とともに家庭、地域の果たす役割の重要性

- ・学校と家庭の両方が、子どもたちに夢を見させてあげるように努力をしていくべき。
- ・家庭教育は大事。全ての責任が学校にある訳ではない。
- ・欧米では、地域が子どもを育てるということがある。地域を挙げて教育を考えるという場の醸成が必要。
- ・学校の状況を踏まえた上で、文化など学校教育を取り巻く状況も盛り込む必要がある。

(9) 教育におけるセーフティネットの構築

- ・貧困の連鎖への対応として、幼児教育にもっと目を向けていく必要がある。暖かみが欲しい。

(10) 特別支援教育における専門性の充実

- ・特別支援教育が重要。支援学校以外の教職員も、もっと専門性を身に付けてもらいたい。そのための仕組みが必要。

【第2回総合教育会議】

(1) 地方創生の視点から教育を考える

- ・多様性を学んで、いろんな人がいろんなところで競争し、頑張っていくことが地方創生に繋がるし、強い社会をつくることができる。
- ・教育に地域の活力を入れていく、産官学金労言が力を結集して次代を担う人材を育成することが地方創生の教育である。

(2) 徳島に誇りを持てる教育

- ・すばらしい徳島の自然から学ぶ、自然を身につける必要がある。
- ・徳島の良さを教える教育が今後重要となるのではないか。
- ・地域のアイデンティティを身につける教育を行うべき。
- ・人間も自然の一部、豊かな自然がある徳島をもっと教える必要がある。

(3) 学校とともに家庭、地域の果たす役割の重要性

- ・地域の中に学生とか児童・生徒が入っていった一緒にやっていくことが重要。
- ・教育の原点は幼少期にある。将来をイメージした幼少期から地域が一体となって徳島ならではの人間形成を行うべき。

(4) グローバル人材の育成

- ・海外からの観光客とコミュニケーションにより生きた英語を学ぶことができる。
- ・世界への壁が低い教育環境が必要ではないか。
- ・昔ながらの日本の文化を知り、その上でグローバルな環境でコミュニケーションがとれる人を育てるのが重要。
- ・世界に通じる人材育成に向け、コミュニケーション能力とかを地域と一緒に育てていく仕組みが大事。
- ・徳島と世界をつなげるグローバルマインドを持った人材の育成。
- ・生徒主体の授業により、アイデンティティを持つことで生徒が目標を持って学ぶことができる。

(5) 将来に「夢」や「目標」を持ち社会貢献に寄与する人材の育成

- ・目標を定め、実践することにより勉学に対する苦手意識が解消できる。
- ・将来の目的をしっかり持たせることが大事。
- ・社会貢献ができる人材育成を行うべき。
- ・いろんな分野でこんなにできる人がいるんだというのを知ることで、夢を育むことができる。
- ・テストの成績がいい子がほめられるのではなく、様々な分野でヒーローとなれるような環境整備が必要。
- ・失敗しても何度もチャレンジできる教育環境の整備を行うべき。
- ・障がいのある人もない人もともに学びともに働くことのできる社会の実現。
- ・生徒に目的意識を持たせ、社会貢献できる人材へと育成することが必要。
- ・生徒を目標に導くプロセスを考えることが生徒のためになる。

「地方創生“拳県一致”協議会」における主な意見

平成27年7月7日に開催されました「地方創生“拳県一致”協議会」及びその後のアンケートにより、地方創生を成し遂げる人材の育成を行うための教育について、各種御意見及び御提言をいただきました。その主なものについては、次のとおりです。

- （ ○……協議会における意見
●……アンケートによる意見 ）

人格形成や心の醸成を図る教育の必要性

- 自立心や人間らしさをもてる情操教育が将来の地方創生を担う人材育成に必要。
- 人間社会の根幹をなすものを幼少期から教えていくことが大事。
- 正規の学習科目に加え、家族を愛し、隣人を愛し、学友を愛する心の醸成・人格形成が図られる教育が必要。
- 心を育む教育が大切。幼稚園・小学校では、おもてなしの心を教えることが重要。
- 学校におけるいじめ自殺問題があとを絶たない状況が続いている。助け合う心をはぐくむことが必要。
- あいさつは人を磨く基本、コミュニケーションの基本であり、教育の基本である。
（全県あいさつ運動展開、県外者(お遍路さん、旅行者)へのさわやかな挨拶の実践)

教育環境面の充実

- 今ある高校は残し、統合しないという視点をもたないと子どもがいなくなり、地方創生はできない。田舎はなくなってしまう。
- 国立大学は大学改革加速期間。生物資源産業学部の新設など、まさしく地方創生をキーワードに改革を進めている。
- 小中一貫や中高一貫、選択できる教育環境づくりが重要。
発達障がい児は、様々な小中学校に通っており、その子たちにも充実した教育を受けられる体制整備が必要。また、不登校の生徒が学ぶことのできる環境整備が重要。
- 那賀高校の森林クリエイト科は、非常にいい話。そういったものが複数できてくることで、その後の大学とか、地元に戻ることにつながるのではないか。
- 森林クリエイト科、鳴門渦潮スポーツ科学科のように、特色を生かした「徳島ならではの学科」を作っていくことにより、徳島で教育を受けたいという人が増える。全体的な学力・体力アップだけでなく、魅力ある教育が必要。
- 大学を出た人が地域に戻ってこられる仕組みが必要。ある年齢に達したら、子どもがその地域で学校に行かれないから、家族で引っ越し、空洞化が起こる。
- 南海トラフ巨大地震に備え、四国初の防災学科を作ってもらいたい。
- ニートや不登校の子どもたちは、社会だけでなく、学校からも排除され、非常に孤立している。その人たちを支援している団体と連携してバックアップすることが必要。
- 中学校では、グローバルな視点を学ぶことが必要。牟岐での英語村、こういう徳島ならではの考え方を広げていくのが大事。
- 教職員がもっと企業の中身を知り、子どもたちを良い就職に導くため、「教職員に対するキャリアアップ教育」が必要。

- 社会人の競争の厳しさ、一般常識の必要性を子どもに教えるため、教職員を育てる必要がある。
- 神山や上勝に高校の分校を作り、農業体験や伝統文化を学び多様な人間とふれあうことにより個性を育ていく教育が重要である。
- 受験勉強中心ではなく、自分の個性を生かせるような幅広いカリキュラムを高校で実践すべき
- 非行少年・引きこもり・いじめに対処する居場所づくりが必要ではないか。
- 全国に名を知られるようになった企業や上勝の葉っぱビジネス、CGやアニメの第一人者の企業、このようなところと連携し「徳島版キッザニア」のような体験教育を行うことで将来のつくしま回帰が加速される。
- 自然を受け入れる教育、自然を感じる教育、あるいは体感的、体験的な教育を大胆に取り入れることを提案する。学習指導要領に即した簡易な実験体験でも「実験教材キッド」を用いるのではなく、身の回りにある道具を用いるなど、工夫を凝らすことが肝要かと思う。そのために教諭からの提案を求め、優れた取り組みを全県的に普及するなど行政的な支援を拡充させることも必要であると思う。
- 文化系の学部を志望する高校生を県内にとどめておくためにもオーソドックスな人文科学系学部（法学部・経済学部など）が必要である。
- 高校野球や大学野球で全国的に通用するチーム作りをめざす。最終的には、そこで育った選手の受け皿として都市対抗野球に出場できるぐらいの社会人野球チームを阿南市に置く。
- どんな子どもでも主演となれる様々な舞台を提供し、個性を活かす教育が必要である。
- 子どもが個性を発揮するため、地域や教育に残る古い習慣を見直すことが必要。
- 先生も研修活動による資質向上、学校で招いた講師等との交流により得た知識等の習熟が重要。
- グローバルな視点を持つため、多様な価値観の理解や言語、特に英語教育に関して、充実が必要。
- 子ども達のきらりと光る個性を見出し、育て、それぞれが活躍できると思う気持ちを抱かせることができるような教育をして欲しい。
- 中・高時代から「将来は、技術者・職人(マイスター)を目指す」（いわゆる手に職を付ける）という教育と受入体制の充実がもっと必要。
（社会や教育機関の受入体制の充実、ドイツのマイスター制度のような制度構築、父兄の理解促進）
- 情報活用力や情報の科学的理解を深め、情報社会に参画する人材の育成を進めて欲しい。
- グローバルに対応できる人材を育成していくことについては、ALT派遣等を通じて進めてもらいたい。

徳島に誇りを持てる教育

- 今の子どもたちは、自分たちの町を知らなすぎる。もっと自分たちの町を教える時間が必要。そして、町に誇りを持てるようになることが重要。
- ふるさとを愛する心を教育の現場でどう醸成するのが大事。民話の伝達など教育の小さな積み重ねが地方創生に繋がっていくのでないか。
- あまりに県内のことを知らなすぎる。もっと文化面で誇りうるものがあることを子どもの時代に教え、徳島をもっと好きになってもらいたい。徳島で働きたいという気持ちが子どもころから生まれるように、徳島を自慢できるよう取り組んでいただきたい。
- 教育は子どもたちだけでなく、全体だと思う。生涯教育もあるので視野を広げて取り組めば、地方創生に繋がる。
- 自分の街・郷土や暮らしを愛する心を育てる教育が重要。

- 地元に対する正しい知識、誇れる面を教育することで、大学進学のため県外に出て行った人が徳島に戻ってくることに加え、他県で知り合った知人に徳島の良さを知ってもらう徳島親善大使として活躍できる。
- 愛郷心を培うため、徳島県についての歴史・文化・自然その他の優れた特徴を、学ぶことを提案する。
- 単に教育力を充実させるとか、学力を向上させるとかではなく、「郷土教育」を充実させることが地方創生に繋がる。
- 地元の魅力やすばらしさを体得し、「地域を自慢し誇りに思う」教育を行うべきである。

地域における教育

- これまでは、知識を詰め込む教育だったが、知っていることを行動に表せるような教育をして欲しい。特に地域で地域を守っていく取組み、小さい頃からそういう体験を積み重ねていけるような教育をして欲しい。
- 限られた予算の中で教職員の待遇も含めていかに実効的に教育に取り組むか。また、与えられた予算だけでなく、企業も含め、全体で教育を考え、地域で育てることが重要。
- 富田中学校では空き教室で竹とんぼ等を教えている。シニア世代との交流により、子どもたちが学ぶことも多い。
- 少子化社会において、学校、家庭、地域近隣の住民が学校運営に関わる制度を充実し、教育問題を地域問題として受け止めることで、教育問題を誰もが主体的に考えていくという契機になる。
- 高齢者の持つ知識、経験、人間力を子どもに伝えることで、学力だけでなく人間力を鍛える教育が実践できる。
- 学校と家庭、地域が集える場としての開放的活用及び地域交流の中心拠点とすべき。
- 家庭教育を推進するため、学校やPTA等を活用し、多くの親と子が集う「子ども養育術セミナーの開催」が必要。
- 家庭や学校、社会＝地域にあって、幼き頃より「働く喜びを体得させる」教育を行うべきである。
- 「地元のことをもっと知る会」を開催し、地元で活躍する方々の情熱を子どもたちに伝える。
- 大きな可能性がある子ども自身が自分の個性を知る機会を創出するとともに、学校や家庭、地域全体で、本人の適性をどんどん伸ばしていけるような土台を作って欲しい。

社会から学ぶ

- 一人一人のやる気と能力が重要。高校生に起業のおもしろみを感じてもらうなど、働くことがおもしろいという気持ちを醸成する教育を推進していただきたい。
- 労使ともに基本的なルールを知らないことが多い。働くということの意義とルールを教育の現場で十分に教えていくことが必要。
- 労働意欲・労働の喜びを与えられる教育が重要。
- 自分と地域、自分と社会との関連性を学ぶ活動が重要。「フィールドワークは徳島」というキャッチフレーズを掲げ、県内のみならず、県外の学生も呼び込むため、フィールドワークパスポートを発行してはどうか。
- 教育がどのように将来や現場に役立っているかを知るために現場に行く機会を増やして欲しい。また徳島への愛を育てるための教育を実践して欲しい。
- 正式の教科の中に遊びを入れて欲しい。子どもは遊びの中から学び取ることが非常に多い。
- 0歳児の「赤ちゃんとママが先生」という授業を行っており、その中で家庭を作る、妊娠出産に夢を持てる命の授業が非常に大事と感じている。
- 成功した社長等、徳島県出身の著名人から学ぶなど、子どもが夢を持てる教育が必要。

- 社会人として生きていくために必要な一般常識を持った人を育てる教育が重要。
- NPOやPTAなど校外講師を活用し、子どもが社会で自分の力で生きて行ける教育を実践すべき。
- 中高一貫教育を通じて学問的にも、精神的にも人間力のベースを構築していく教育が必要
(農業や林業・漁業体験を通じて、自然との共生や徳島の伝統・文化・芸能を学ぶ)
- 世界を身近に感じるため、ブロードバンド環境を活用し、世界一流の人材による講演を英語の授業に取り入れてみてはどうか。
- 絵画や演劇、音楽などホンモノにふれる、体験を重視した教育をして欲しい。
- NHKの番組で有名人が母校を訪ねる「ようこそ先輩」のように、成功した大人の体験を聞く機会を同様な形で広めていくと今の子どもにも伝わりやすいと思う。
- 保育所や保育園へ実習、又は赤ちゃん授業をすすめ、赤ちゃんとのふれあいにより、子どものお世話をしてみたいなど、結婚子育てへの夢だけでなく、保育士への夢をもってもらいたい。
- 家庭・学校・社会教育などを統括的に進めるため、県内有識者をこれまでの発想にはなかった分野からも参集することで、学校内でのいじめ問題を含めた人権教育、グローバル・イノベーションといった教育の諸課題と周辺問題を県の施策として反映させることが可能となる。
- 県内の企業や大学、研究機関等と連携し、児童・生徒に先端的な科学・技術体験や就業体験の機会を提供するなど、研究者や職業人との交流を通して、就業に必要な資質や能力等について学び、将来の職業に対する夢をはぐくむ「チャレンジ体験型教育」を実施する。
- 子どもの成長段階に応じて、「徳島県の魅力」「徳島県の企業」を知る機会を提供し、徳島県を好きになり、「徳島で働きたい」という気持ちを持ってもらいたい。
- 働くことの大切さとそれぞれが守らなければならない基本的なルールを学校の授業の中で段階的に教えていくことが重要
- ペーパーテストの競争のみでなく、教師、親とも、もっと広い視点と長いスパンで子どもの人生を考えるべき。一流選手の体験型授業が効果的。
- 学校教育では、必須科目の勉強に加え、地域の自然や歴史文化、生活の知恵などを教えるため、様々な講師（人生の達人を招き、生きた学習プログラムの構築）を活用すべき。
- 「世界で活躍する徳島県出身の先輩のお話を聞きたい会」を開催し、失敗談や乗り越えた方法を聞くことで将来の夢を抱きやすくなる。また、この講演をネットを活用し、県内の各校へ配信することにより、教材としても活用できるのではないか。
- 知識教育だけでなく、起業をバーチャルで行う授業、ビジネスプランを作成する授業のように、「自ら考え、行動する」ことのできる起業教育を推進する。
- 企業、農林水産業などの現場見学、職場体験を充実し、企業活動、農業等を身近なものとして感じてもらい、将来の地元就職意欲を醸成する。
- 子どもたちの「生きる力」を育成していく中で、働くことについての関心や意欲を醸成するキャリア教育が必要である。職場体験、職場見学を充実してもらいたい。

徳島教育大綱(仮称)策定に係る意見交換会における主な意見

地方創生から日本創生へ！「徳島ならではの」教育

- タブレットの配布などを通じて、ICTを活用した遠隔地での教育の推進が必要
- ICTを活用し、クラス単位の授業に縛られないことで、いじめや不登校手前の子どもの居場所づくりに活用できるのではないか。
- ICTについては、充実することで、発達障がいの方の教育にも活用が可能。
- 特別支援教育について、「療育面」から一歩進めた「専門的能力」を伸ばす教育を行って欲しい。
- 発達障がい児はみんな天才であるという 誤った風潮の是正を行っていただきたい。
- 四国の大学で行っているek4（四国地区大学間e-Learning連携）を高校に拡大できないか。
- 災害発生時の若い世代のボランティア力は、非常に重要。南部圏域で、四国初の危機管理防災学科の創設を是非進めて欲しい。

一人ひとりが輝く！徳島の「未来」を育む教育

- 自分の強みが何かを言える教育を小さい頃から行う必要がある。
また、大人に対する教育も同時に行うことが重要である。
- 自分が地域とどう関わっているかを知り、自分が地域で生きる価値を培う教育を親や保育園等社会全体で教えていく社会教育が教育の根底にあって欲しい。
- 担任との意思疎通がうまくいかない場合にカウンセリング的にバックアップするシステムづくりが必要。
- 幼稚園・保育所等における障がい児の受入体制の充実を図っていただきたい。
- 子どもたちの意見をしっかり吸い上げる仕組みづくりが重要。
- 子どもの自主性を踏まえ、大人が枠に入れない、子ども目線の教育が必要。
- お遍路さんの「おせったい」など、幼少期からのフィールドワークを通じた「おもてなしの心」を育むことが重要
- ふるさと徳島の歴史文化の教育について、フィールドワークに加え、どう「継承」していくかに視点を当てることも必要。
- 漁業や農業、LEDなど徳島の強みを生かし、県全体をフィールドとする「リアルキッズニア」として発信することで人を呼び込むことができる。
- 教職員も含め、もっと地域に出られる体制整備が必要。
- 夢を持てる子どもを育てるため、どうすべきか、先生はもっと発言する必要がある。
- あらゆる分野での次世代育成及び後継者対策が重要。
- 学校では、頑張っている部分も多数存在する。もっと学校に足を運んでもらいたい。
- 夢のある教育を行うため、子ども目線で取り組むことが重要。大人の社会の常識でテクニックを教える教育ではなく、発想力から適性を見いだす、子ども目線の教育に変えないと行けない。

世界へチャレンジ！「進取の気質」あふれる教育の推進

- サマースクールを拡充し、インターナショナルスクールを作り、英語を身近に感じるとともに、人材育成を行ってはどうか。
- 国際社会との交流機会を増やす必要がある。牟岐の英語村で国際感覚を養うとともに、地元との交流も活発に行う。これを特区的なことで進めて欲しい。
- 世界一流の人の講演でなく、ラフなトーキングを行うことで世界への親近感がわき、夢を持つことができる。
- 東京オリンピックに向けたジュニアからの一貫した指導体制の整備が必要

- 県の支援で地方創生の観点から、鳴門教育大学と北海道教育大学、宮城教育大学、東京学芸大学、上越教育大学、愛知教育大学、京都教育大学、大阪教育大学、奈良教育大学、兵庫教育大学、福岡教育大学の間で教育養成系専門大学の大学ネットワークを構築を行う。
- 県と県教育委員会が一体となって、地方創生の観点から「地場産業振興教育」を推進する。
- 県、工業技術センター、徳島大学理工学部が連携して、カーボンナノチューブ(半導体・燃料電池等の素材)の研究開発の推進を行う。
- 県と県教育委員会が一体となって、世界の名門大学とのグローバルな教育ネットワーク網を構築する。
※「TOKUSHIMA 英語村」の更なる発展、「TOKUSHIMA ICT村」の開講
- 県、県教育委員会、鳴門教育大学とが一体となって、各市町村教育委員会における地域教育振興の支援を行う。
- 県が郷土愛や地域愛に富む「地方創生」を担う人材育成を行う。
- 県と県教育委員会が一体となって、地域の生涯学習の拠点たる各地域の公民館に元気、活気、活力を取り戻す施策を行う。
- 県が地方創生の観点から徳島大学と連携して、宇宙航空産業、ロボット産業、情報通信技術産業、バイオ産業、健康産業、医療産業、エネルギー産業等の人材育成を行う。
- 県が地方創生の観点から徳島大学生物資源産業学部附属農場(石井町)の有効活用を行う。
- 県が大手予備校の学校を誘致する。
- 県と県教育委員会が広島県立油木高等学校の「ナマズ・プロジェクトチーム」の取り組みを見習う。
- 県及び県教育委員会が一体となって、「教育立県 とくしま」を推進する。
- 県及び県教育委員会が「教育の力」や「人づくりの力」が「地方創生の原点」であることを認識する。
- 県教育委員会が東京都教育庁の都立高校改革制度の取り組みの一環における「進学指導重点校制度」を導入する。
- 県が放送大学の協力を得て、各地域における生涯学習の振興を行う。
- 県及び県教育委員会が京都市及び京都市教育委員会の京都市立高等学校の学校改革を見習う。
- 県が「関西広域連合本部事務局」を通じて、徳島大学と京都大学・京都工芸繊維大学(「阿波藍」の学術研究)・大阪大学・神戸大学等と学術研究面又は教育面での推進の橋渡しを行う。
- 県教育委員会が広島県教育委員会の「学びの改革」を見習う。
- 芸術大学や学部、芸術専門学校の誘致
地域創生を進めるため、徳島の魅力を再発見し、かつ新たな産業を創造する事が大事であり、その為には四国初の芸術大学あるいは既存大学での芸術系学部創設や専門学校の誘致が必要。
陶芸・家具・文学・染色・織物(徳島の伝統産業に繋がる)・絵画・放送映像・建築・音楽・ガラス・工芸・アニメ・グラフィックデザイン等の学科を設け、四国中の若者を徳島に集めるべき。
- 既存大学や高校での航空学科や観光学科の創設
国内の観光産業が急激に広がる中、四国における観光人材供給拠点を徳島が目指すべき。
- 地域の偉人の掘り起し
徳島には、実は歴史上、さまざまな偉人がいるが、文化の森博物館や教育現場でほとんど取り上げられておらず、改善すべき。銅像とはいかないまでもFRP製の像であれば安価でできる事から、県内各地に設置すべき。
- 地域伝承の情報発信
伝承は真偽の問題もある事ながら、全国的には真剣に取り上げられており、徳島では金長狸や空海伝説くらい。もっと民間に伝承される逸話を発信すべき。

- 国際交流拠点としての徳島
県内の自治体や県自身が交流する海外都市や州の学生や社会人を定期的に招き、バラバラの交流ではなく県一体で同期間に徳島で交流する機会を設けるべき。
- 国史跡や町並みの復元作業
徳島から全国への発信として、徳島には山村集落、漁村集落、門前町、街道町、離島集落、川並集落等、日本では消え去りつつある町並みが気が付けば全県下に残っていることから、国からの認定を増やしたり、保存活動を実施し、教育や観光に生かすべき、また国史跡の保存復元を、国の規制緩和を求めることにより進めていくべき。
- 教育現場や姉妹都市として、四国内、ドイツ、ポルトガル、中国、米国と県内自治体あるいは県では存在するが、韓国や発展する東南アジア、インド・スリランカ、太平洋、ロシア・東欧との友好親善を新たに目指し、国内でも対岸の和歌山、兵庫との交流を深めていくべき。
- 県が徳島大学と一体となつて、国際科学オリンピックで活躍できる人材を育成する。
※(徳島数学、物理、化学、生物)オリンピックの開催
- 県の橋渡しで「黄金の村」(那賀町木頭)と「徳島大学・生物資源産業学部」との間で食品加工面での連携ができるようにする。
- 県が地方創生の見地から「徳島大学総合科学部・地方創生コース」と連携して、地方創生事業の取り組みを行う。
※具体的には徳島自動車道における「SA」及び「PA」の活性化、各地域における「道の駅」の活性化等
- 県が地方創生の見地から「徳島大学総合科学部・地方創生コース」との連携を行う。
- 県が主体となつて徳島科学技術高校、城西高校、徳島商業高校との三つの県立高校で「農工商連携高校教育」を推進する。
- 県が「地方創生」の見地からICTの情報通信技術による「ICT教育の道」の推進で「教育立県 とくしま」を実現する。(「ICT電子黒板」の設置、「校内用無線LAN」の整備促進、「教師用デスクパソコン」の配備、「児童・生徒用デスクパソコン」の配備等)
- 県が「地方創生」の見地から「情報通信研究機構」や「森林総合研究所」、「四国酪農大学校」の誘致を行う。
- 県が平成28年4月の徳島大学工学部から理工学部への改組を鑑みて、県内の小・中・高校における数学(算数)及び理科の勉強の強化を行う。
- 県の支援で「徳島県立名西高等学校・芸術科・書道専攻」と「筑波大学芸術専門学群・書専攻」と「高大連携書道教育」を行う。
- 県が「徳島県立小松島高等学校」及び「徳島県立穴吹高等学校」を六年間中高一貫教育制とする。
- 県の支援で「徳島県立鳴門渦潮高等学校・スポーツ科学科」と「筑波大学体育専門学群」と「高大連携スポーツ教育」でトップアスリートの人材養成を行う。
- 徳島県の支援で厚生労働省を通じて「徳島県立富岡東高等学校・羽ノ浦校」の「看護科」と「国立看護大学校」との高大連携看護教育を行う。
- 県が「地方創生」の取り組みの見地からICTの情報通信技術を活用して、政府関連機関の「ICTサテライト・オフィス大学校」を誘致を行う。(「自治大学校」、「税務大学校」等)
- 県が「地方創生」の取り組みの見地からICTの情報通信技術を活用して、国立大学法人の「ICTサテライト・大学キャンパス」を誘致を行う。
- 県が平成28年4月の「徳島大学生物資源産業学部」の開設と有機的及び一体化する「農業・食品産業技術総合研究機構」の誘致を行う。
- 県が「徳島県立林業大学校」の開学又は「徳島県立農林大学校」の開学を行い、林業の後継者や担い手を養成する。
- 県の支援で「徳島県立小松島西高等学校・食物科」の生徒が運営する地産地消に基づいた「高校生レストラン」の開店及び講師に「帝国ホテル」、「ザ・リッツ・カールトンホテル」(東京・京都・大阪)等の国際インターナショナル高級ホテルの総料理長を招聘する。

- 県、徳島労働局、労働安全技術センターが連携して「徳島県立那賀高等学校・森林クリエイト学科」で「木材架線作業主任者」及び「木材加工用機械作業主任者」の人材養成を行う。
- 県の支援で「徳島県立徳島科学技術高等学校」と「東京海洋大学」との間で高大海洋科学・海洋技術連携教育を行う。
- 県、徳島労働局、安全衛生技術センターが連携して「徳島県立徳島科学技術高等学校」で「潜水士」の人材養成を行う。
- 県の支援で「徳島県立名西高等学校芸術科」と「東京芸術大学」との間で高大音楽連携・美術連携教育を行う。
- 徳島県が「徳島県立芸術大学」を開学する。
- 「徳島県立阿南工業高等学校」を「徳島県立阿南科学技術高等学校」にして日亜化学工業と連携して、更なる「LED教育」や「ものづくり教育」の強化を行う。
- 県が県内の公立小学校における初等教育から公立高校における高等教育までの教育変革を行う。
 - ※「外国語科教育」、「理数科教育」、「ICT教育」に力を入れる。
 - ※小学校の算数の授業で「流れ図」(フロー・チャート)を勉強させる。
 - ※中学校の数学の授業で「論理と集合」を勉強させる。
 - ※高等学校の数学の授業で「統計学」を勉強させる。
- 「徳島県立徳島科学技術高等学校」に「東京工業大学附属科学技術高等学校」の教育的手法を導入して「高度なものづくり技術教育」や「高度なICT技術教育」の専門的な技術教育に力を入れる。
- 県がICTの情報通信技術を活用して神山町や上勝町の「ICTサテライト・オンライン塾」をモデルケースにして、「地方創生の実現に向けた徳島の教育」の取り組みを推進する。
- 県が文部科学省に鳴門教育大学の大学の敷地内に「鳴門教育大学附属高等学校」を開校するように要望する。
- 県と鳴門教育大学との連携による学園都市化を推進する。
- 県が文部科学省に県内の県立高校における「スーパー・サイエンス・ハイスクール指定校」(SSH)の拡充を要望する。
- 県が文部科学省に「徳島県立徳島北高等学校・国際英語学科」における「国際バカロレア認定校」の認定が受けられるように要望する。
- 県が鳴門高校、阿波高校、脇町高校に「理数科」の復活を行う。
- 県が「徳島県立城南高等学校」を「東京都立日比谷高等学校」、「埼玉県立浦和高等学校」、「千葉県立千葉高等学校」と同等な全国屈指の公立の進学校にする。
- 「徳島県立徳島科学技術高等学校」対「東京都立科学技術高等学校」との科学技術高校対決を行う。

Facebookにおける主な意見(8月4日現在)

- 学校における英語教育について、いきなり英語に触れさせる、外国人と交流させることはより苦手意識を発生させること、ハードルが高いことだと感じます。段階を踏むべきだと思います。具体的には、小さいころから世界遺産などの美しい世界を写真集や本で体験することなどで外国に興味をまず持ってもらうところから始める、というのが良いと思います。音楽や文化でも良いと思います。
- 授業でITを駆使するというのは将来的に必要ななってきますが、それについてメリット、特にデメリットを考え、それについての対策についてもきちんと考えるべきだと思います。例えば、遠隔地でインターネット授業をする、クラス単位のしぼりが無くなるということは、平等な教育は受けられると思いますが、子どもたちがリアルな繋がりが感じられにくくなってしまいうなどがあると思います。ネット社会において子どもの心のケア、ネットに対する知識は必要になってくると思うので教育にも取り入れるべきだと思います。
- 障がいのことについて義務教育から勉強していくべきだと思います。見た目ではわからない高度発達障がいについてはきちんとした知識がなければ様々な弊害が出てきます。具体的な例としては、小学生の時に色々な人がいるということ、中学生で知識として取り入れていくこと、高校生でボランティア教育として実際に関わってみること、など段階を踏んでいけば効果的だと思います。全ての教育で言えることだと思いますがやはり段階的に、継続することが大事だと思います。
- 教育について、とても良い案が多くあると思うのですが、それが県内の子ども達はあまり感じられていないと思い、残念に思います。やはり具体的な例と案が上手くできていない、宣伝力が足りないように感じます。
- 英語教育についてですが、小学校では2020年度から英語を正式な教科になる方向だと聞きました。文部科学省の調査で中学1年生の8割が読み書きを小学生の頃にしたかったと考えており、中学で英語の苦手意識を減らすために、読む・聞く・話す・書くをバランス良く教えられる教員の育成がまず最初に必要だと思います。また、従来のクラス単位で授業を行うのに加えて、科目によっては必要に応じてレベル別に分けて授業を行うことも必要だと思います。そうすることで退屈する子どももついていけない子どもも減少すると思います。さらに、高校生においては学校生活に支障が起きない夏休み・冬休みなどに留学することを学校から全面的にサポートする制度を作ることによって英語に特化した生徒も育成につながると思います。
- 地元である徳島の魅力・歴史を教え、ふるさとを誇りに感じさせる教育が必要だと思います。必修の科目に加えてするため、文字ばかりの堅苦しい教材でなく子ども達が楽しく自然と身につくような教育をしないと子ども達の記憶に残らないと思います。例えば、徳島の特産品を使って調理をし実際に試食をすることで郷土料理を知る、自然や町並みを含めた歴史・文化をわかりやすくイラストなどを多く用いたオリジナルの教材で伝える、遠足などで積極的に訪れ体験する、などがあると思います。小学生の頃から、あるいは幼稚園・保育所の頃から徳島の魅力を伝えることで地元を誇りを持つ子ども達が増えるのではないかと思います。
- 徳島には文系の学部が非常に少なく、文系を志望する高校生が大学進学を機に県外に出ているということがあります。従って、文系を志望する高校生を県内にとどめておくために文系の学部の増設が必要だと思います。しかし、実際に学部の増設を行うことは大掛かりで難しいかもしれませんが、地元を誇りを持つ子どもが増えれば徳島に戻ってくるはずで、それだけでなく、県外で知り合った友人などに徳島の良さを伝えてもらうという効果もあると思います。教育においてはすぐに変化を起こすというのは難しいと思いますが良い方向に向けて努力することが大切だと思います。